

## 【別紙 1】

### ・「NEC Cloud IaaS」の特長

#### 1. 2種のサービスにより幅広い顧客ニーズに対応

##### (1) 「NEC Cloud IaaS (STD)」

国内トップクラスのコストパフォーマンスを実現し、負荷変動が大きなWebサーバや大規模な並列処理に適したサービス。処理量に応じてサーバ台数を迅速に増減可能であるとともに、時間課金を利用したコストの最適化が可能。

「OpenStack」をはじめとするOSSの全面的な利用に加え、本サービス専用に、最新の低消費電力CPUを採用した省電力・高集積サーバを新たに開発。1ラックあたり700サーバを収容できるため、従来型のサーバ（注1）を活用する場合と比較して、消費電力と設置スペースを1/4に削減。

また、冷媒の気化・液化の際の熱循環により冷却する「相変化冷却方式」（注2）を基にNECの中央研究所が開発したサーバ冷却装置を導入。これにより、省電力・高集積サーバを従来型の水冷方式と比較して、冷却電力を1ラック当たり約30%削減。

##### (2) 「NEC Cloud IaaS (HA)」

基幹業務で長年にわたり実績を有する自社製品を利用し、高性能・高信頼を必要とする基幹業務に適したサービス。利用するCPUコア数やメモリの柔軟な拡張が可能なため、データベースなどの処理量が増加した際も、サーバ性能をきめ細かく向上させることが可能。

上記2種のサービスは、「NEC神奈川データセンター」内で密連携することで、業務システム全体の性能・運用の最適化が可能。

また、SDN（Software-Defined Networking）を活用し、顧客構築システムからの移行の容易化や、短時間でのICT資源の調達などを実現。

さらに、NECのセキュリティ専門組織と連携したサイバー攻撃対策、

セキュリティ監視、ID・アクセス管理サービスにより、外部からの脅威に対するセキュリティを確保。

## 2. ハイブリッドクラウド環境を統合的に運用管理できるセルフサービスポータル

「NEC Cloud IaaS」（STD/HA）で利用するサーバ、ストレージ、ネットワークを、顧客が同一画面から調達・管理できるセルフサービスポータルを提供。

セルフサービスポータルでは、「NEC Cloud IaaS」だけでなく、顧客構築システムや他のクラウド基盤サービスの監視、利用状況・構成情報などの管理を統合的に実現。これにより、クラウド導入の進展に伴い複雑化するシステムの運用管理業務を効率化。あわせて、NECが顧客に代わりシステム全体を統合運用するサービスも提供。

## 3. クラウドサービスとハウジングサービスのハイブリッド利用が可能

「NEC 神奈川データセンター」では、「NEC Cloud IaaS」に加えて、顧客のIoT機器を預かり運用するハウジングサービスも提供しており、両サービスを組み合わせて利用することで、顧客システム全体の運用効率化を実現。

以上

(注 1) NEC 製ブレードサーバとの比較。

(注 2) 相変化冷却方式：冷媒が液体から気体、または気体から液体に変化する相変化に伴い、大きな熱の移動が生じる現象を利用した冷却技術。アルコールで腕を消毒すると「冷やり」と感じるのも、アルコールの気化によって皮膚が熱を奪われたことによる。